



撮影場所：伊勢神宮（三重県伊勢市）

新年明けまして

おめでとうございます

庚
子

〈2020年〉

昨年は、今上天皇の生前譲位で「平成」の時代が終わり、徳仁天皇御即位で「令和」の時代が始まった、日本にとって大きな節目の年でした。

今年は、いよいよ東京オリンピック開催の年で、海外からも多くの人々が来日され、日本全体が大いに活気づく年となるのが予想されます。

今年2020年の干支は「子(ね)」（ネズミ）で、正確には「庚子(かのえ、ね)」の年となります。

子は、本来「孳」という字で、種子の中に新しい生命がきざし始める状態を指します。

また干支の「庚」は「更」という字に通じ、植物の成長が止まって、新たな形に変化しようとする状態を指します。

「^{かのえ}庚子」の年は変化が生まれる状態、新たな生命がきざし始める状態で、全く新しいことにチャレンジするのに適した年といえます。

徳真会グループでは昨年も、全国の歯科を受診される0.3%の患者様にご来院頂きました。

しかしながら、患者様の受け入れ体制の拡充が遅れているところもあり、一部の地区や医院では、ご来院いただいた患者様に御迷惑をお掛けした事をお詫び申し上げます。

今年も引き続き、現場の充実に努力してゆきますのでよろしくお願い致します。

今年徳真会グループでは次の課題に組織として取り組んでゆきます。

①<診療部門>

- 1、無料送迎サービスの拡充（新潟、福岡、仙台地区）
- 2、保育士による治療中の患者様の子供さん
無料預かりサービス拡充（全地区）
- 3、在宅サービス拡充（新潟、東京、大阪、福岡地区）

- 4、口腔内印象（型どり）のデジタル化により、患者様への治療での負担軽減と技工物納期短縮及び品質向上
- 5、自費治療のレポートの拡充により、患者様の選択肢の拡大
- 6、徳真会クオーツタワーでの外国人患者様対応、診療拡充
- 7、クリニックマネージャーの育成増強による現場対応力の強化

②<技工部門>

- 1、国内外でM&Aと業務提携の拡大で、技工界の業態改革による新たな産業の構築と、次世代技術者の育成
- 2、ミャンマーを始めとする途上国への技術支援

③<管理部門>

- 1、関連分野での企業内起業推進（website、システム、開発 etc）
- 2、働き方改革に対応した人事システムの運用
- 3、独自システム開発による運営管理の合理化（人事・経理、財務、技工 etc）
- 4、全国規模でモラルの高い治療レベルのしっかりした歯科医院のネットワーク構築

以上を今年の主たる課題とし、より充実した診療現場を創ってゆきます。

お気づきの点や、御要望があれば何なりとご指摘いただければ幸いです。
（徳真会患者様窓口 TEL：0120-24-7072）

今年も皆様にとって

より良い年となります様、祈念しております。

徳真会グループ
代表 松村 博史